

## 十分のしゅくだいと二時間のウン

弘前市立和徳小学校

後藤 碧斗

ぼくは、『先生、しゅくだいわすれました』という本をえらびました。この本を読もうと思った理由は、しゅくだいって大切なのに、なぜ本のタイトルが「わすれました」となっているのか気になってえらびました。

この本は、ゆうすけ君という男の子が、しゅくだいをわすれたことからじまります。さいしよは、わすれた理由を、だれかがびようきとか、死んじやったというウンをつきました。しかし、先生にすぐにウンがばれてしまいます。先生は、「ウンをつくなら、すぐばれるようなのはためだよ。もつと、ばれないようなので、それから、聞いた相手が楽しくなるよ。うなのじゃなくちゃ。」と言いました。じょうずにウンをつけるなら、しゅくだいをしなくてもよいと言うのです。次の日にゆうすけ君は、しゅくだいをわすれてきました。その理由は、うちゆう人に算数の九九を教えていたら、いつのまにか朝になつていたので、しゅくだいができなかつたということです。それを聞いた先生は、「それじゃあ、しゅくだい、で

きなくつてもしかたないわね。」とウンの理由でもゆるしました。それから、毎日一人ずつウンの理由を言つて、しゅくだいをわすれてくる人がでてきます。しかし、まじめにしゅくだいをやりたい人もでてきて、もめた後、さいごは全いんしゅくだいをやつてきておわりました。

ぼくは、ゆうすけ君の、しゅくだいは十分でおわるのに、ウンを考えるのは二時間もかかつたという言葉が心にのこりました。なぜなら、しゅくだいは十分でおわるのに、ウンの理由を考えるのに二時間もかかるのであれば、しゅくだいをやつたほうがましだと思つたからです。

ぼくは、しゅくだいをわすれたくありません。しゅくだいをやつてくると、気もちがいいからです。ぼくも、前に学校にしゅくだいをわすれてしまつたことがあります。その時は、朝に四十分ぐらい早く学校へ行つて、しゅくだいをやつたけいけんがあります。その時は、ドキドキしてあまりねむれなかつたし、ふ安になりました。朝、学校でしゅくだ

いをやっている時も、あせってうまく計算ができなかったりと、全ぜんいいことがありますでした。

この本を読んで、ウソをつけてしゅくだいをやらないことは、よくないと思いました。しゅくだいは、自分が学校のじ

ゆぎょうで習ったことをおぼえるためにひつようなことだと思うので、これからもしゅくだいをわすれずに、がんばっていこうと思いました。